

2017年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2018年3月18日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 川 染 三 郎
鴻巣市東1-1-27
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/>
印刷所 (株)シャローム印刷

新年合同礼拝

熊谷教会 大坪 直史

二〇一八年の新年合同礼拝が一月八日(月・祝)、大宮教会を会場として行われました。埼玉地区では、三区合同の新年礼拝と各区合同の新年礼拝が隔年開催されています。

今年は三区合同で、五十六教会・伝道所(地区内は五十四教会・伝道所)から二九四名の出席者がありました(詳細は地区HP参照)。



地区内の六十一教会・伝道所の内、三〇〇名規模の集会が可能な場所に限られています。今回は大宮教会が会場教会として、礼拝・聖餐から礼拝後の交わりの場まで整えてくださいました。礼拝司式は狭山教会の森淑子先生でした。森先生の落ち着いた司式のもと礼拝が開始され、賛美がささげられますと、礼拝堂は約三〇〇名の会衆の賛美の歌声に震えました。ひとりの主を、ひとつの信仰をもって礼拝し、ひとつの歌声をもって賛美する。この礼拝の交わり、すなわち主と私、また主にある私たちの交わりにこそ、地区の一致と連帯の基があるのだということを感じさせられました。



子どもへのメッセージは本庄教会の正田義也先生がなさいました。先生は身振り手振りを交えながら、「天の父なる神さまは良いものをくださっているし、これからも良いものをくださるから、恵みを感じつつ、また恵みを祈り求めながらまいりましょう」と、ダイナミックに語られました。

メッセージ後、子どもたちは退堂し、別室で地区教育委員会による特別プログラムの時を過ごしました。説教者は、東京神学大学学長の大住雄一先生でした。



たね

「教会といえば百合?」

いつもお世話になってる教会の入り口に、小さな鉢植えが大切そうに置かれています。それはブーゲンビリアの鉢植えとのこと。そう聞いただけで、イスラエルの風景が頭に広がりました。クリスマスにはポインセチアやシクラメン、イースターには百合。暦から連想される花々は、日本でも定着しています。教会だけでなく、クリスマスシーズンになると、お花屋さんの店頭には色とりどりのポインセチアが所狭しと並びます。キリスト教を日本に伝えた多くは、欧米の宣教師であったこと。洋花の栽培技術が向上したり、流通の効率が良くなったのも、花の普及に影響していると思います。イスラエルでは、クリスマスといえば野に咲くシクラメン。イースターといえばブーゲンビリア、でしゅうか。暦と花の繋がりは、私たちの連想する花とは違うでしょう。神様が創造された花々が、イエス様のお恵みと御姿を、更に覚えさせてくれます。

(町田さとみ)

大住先生は埼玉地区と関係が深く、一九八三年から二年間、大宮教会の担任教師を務められました。また、大住先生のご夫人は、東松山教会のご出身でもあります。さらに、地区委員長の川染三郎先生（鴻巣）との関係においては、かつて富士見町教会で、川染先生が神学生（CS教師）、大住先生がCS生徒という時代があったそうです。



大住先生はマタイによる福音書七章七節から十二節の御言葉に基づいて「神がくださるうとされるのだから」と題して説教されました。

「イエス・キリストを犠牲にしてまで『くれる』とおっしゃっている方を、なぜ信頼しないのですか、ということだと思えます」と力強く語られました。神がくださるうとしておられる、その救いの恵みを信頼・信仰をもっていただく。そ

れは洗礼を受けて初めていただくことのできる聖餐のパンと盃にもあらわされる恵みであります。その恵みに与る幸いについて改めて味わい知ることができました。

聖餐式は大宮教会の熊江秀一先生（司式者）と埼玉和光教会の岩河敏宏先生（補助者）が務められました。

ここでも主にある教会・伝道所の一致と連帯における絆を再確認することができました。



礼拝後には、今年成人式を迎えた二名の方を紹介し、川染先生により祝福の祈りがささげられました。地区の交わりの内に、子どもたちや若い青年た

ちの生き生きとした姿、また成長する姿を見ることができ、改めて主の恵み深さを覚えることができました。



その後、会場を地下一階のホールに移し、交わりのひと時が持たれました。



大宮教会の皆さまが美味しいカレーを三〇〇食、さらに茶菓をも用意してくださり、寒い季節に温かな食べ物をいただいで、賑やかな立食パーティーの時となりました。

出席者は、普段なかなか会うことのできない他教会の出席者との再会を喜び、それぞれ思い交わりの時を過ごすことができました。

大宮教会の皆さまには、見える所、見えない所で、大変お世話になりました。このようにして、新しい年、地区内の諸教会・伝道所が一堂に会し、主を礼拝し、兄弟姉妹や求道者の



方々との交わりを通して、新しい気持ちで歩み出すことのできました幸いを、主に心から感謝いたします。

埼玉地区は、「地区内諸教会・伝道所の一致と連帯の強化に努め、福音の前進に仕えることを目的」としています。新年合同礼拝は、新しい年における地区の一致と連帯の新鮮な第一歩となったのではないのでしょうか。

地区内諸教会・伝道所は、それぞれの課題に直面しつつ、なお主により頼みつつ、主に委ねられた福音の前進と教会の充実のために仕えています。そのような中で、私たちは時に、孤独な思いを抱かざるを得ないようなこともあります。私たちは主において一人ではありません。地区にあって一人ではありません。互いの課題を共有しながら、また、互いに祈り合いながら、今年も主の新しい祝福と恵み、守りと助けをいただいで、主の御栄光のために共に仕えて行く者とされたいと心から祈り願うものであります。

（埼玉地区委員）

《就任おめでとうございます》

《就任への恵みの中で》

本庄教会 正田 義也



十一月から本庄教会に担任教師として着任しました。待降節中、十二月十日(日)に東野尚志教区議長の司式のもと就任式を行って頂きました。今年、本庄教会は創立一三〇周年を迎えます。この時期に就任することができ大きな恵みです。

待降節に入った十二月九日(土)、今年度第二回講習会が「ルターの宗教改革とオルガン」と題し、前回に引き続き講師に小田部進一先生をお迎えして大宮教会で開かれました。



集会報告

十 教会音楽講習会

大宮教会 勝野 昌子

最初にクリスマスを間近に控えたこの時に、讚美歌21に収録されているルター作詞作曲の二つのコラールに基づく待降節と降誕節の四つのオルガン曲を音楽委員が交代で演奏しました。その後、二つの演題がありました。

第一は、「ルターの宗教改革とその影響」についてです。ルターの信仰体験から現在に繋がる信仰の本質について話されました。心に響いたことを若干記します。

・ルターが修道院生活の中で、聖書を通して神の言葉と出会い、神が罪人に赦しを与える賜

物として義が示されているということ。

・神の愛が先にあり、これを受けて愛されるに値する者としての質や価値が生じる。それは、ただ信仰によってのみ確信されキリストの十字架の贖いによって義とされること。

・この経験からそれらが贖宥制度についての九十五カ条の論題へとつながったこと。

・聖書の翻訳により、母語で誰もが読むことができ自分自身で考え、物事を判断出来る様に、学校教育の進展に大きく貢献する事となったこと。

・その影響が多方面にわたって現代に至り、宗教改革への想いを馳せる場ともなった。

第二は、「ルターと家庭とクリスマス」でした。

・ルターは日々悔い改め神に感謝する祈りの人でもありましたが愛する娘の死に出会って深い悲しみ故に、感謝の祈りが出来ず友人に執り成しの祈りを頼んだという一人の人間としての側面があった。

宗教改革から五百年の流れの中で、今がどのような意味を持つものかを、小田部先生の内容豊かなお話を通して、十三教会四十七名が考えさせられるひと時となりました。

(教会音楽委員)

十三区合同教師会

加須教会 舟生 康雄

一月二十九日(月)に三区合同教師会が行われました。担当は三区で、会場は和戸教会でした。

寒い中、晴天に恵まれ四十一名の参加がありました。開会礼拝は司式・三羽善次牧師、奏楽・温井節子牧師で、説教で三羽牧師は教職の「神離れ」について語られ、牧師が召命観を失うという深刻な問題について話し、招きにふさわしく歩むよう語りました。

次に「教会に仕えて五十年」と題して、川染三郎地区委員長が発題しました。「埼玉地区をどう形作っていくのか、教会的な絆をなんとかしなければならぬ」と話され、「一教会だけではやっていけない状況があるため、祈り合い支え合って最寄り区を充実させる必要がある」と訴えられました。質疑では竹内紹一郎牧師をはじめ何人かの方々が発言なさいました。

(教師委員)

十 信教の自由と平和を求めらるる2・11集会

川口教会 本間 一秀

二月十一日(日)午後二時半から大宮教会を会場に開催し、小林眞牧師(岩槻)を講師に「戦時下の宗教弾圧と私たち」第二次世界大戦下における事例に学ぶ」との講演から学びました。

先生が牧会された東海教区遠州教会の戦時下の抵抗運動の様子や教団の戦時下の歴史を詳細な資料を通して講演してくださいました。一九三二年(昭和六年)に全国の教会へ「戦争反対声明」を送付、一九三六年(昭和十一年)には教員の聖隷福祉事業団創始者である長谷川保氏が、「天皇は、あくまでも人間であって礼拝の対象であるべき神では、ありません。」との建白書を浜松憲兵分隊長に提出したところ、投獄されたとの事です。

今の時代に生きる私たちキリスト者への指針が与えられた講演でした。

参加数は二十八教会・三伝道所から一一八名でした。

(社会委員会)

特集

毎号地区内の教会・伝道所から「今・そして課題と展望」について寄稿していただき、お互いのことを身近に感じながら「主にある交わりを深める」地区の主題への一助になる事を願っています。

* * * * *

主は、今、生きて働かれています

浦和別所教会 澤田石秀晴

浦和別所教会では、新会堂の建設を通じて、「主は、今、生きて働かれています」ということを示され、教会員の多くが、体中に鳥肌が立つ経験を致しました。



二〇一六年四月、私が浦和別所教会に遣わされた時、大友英樹先生を中心に新会堂建設委

員会が活動しており、私も一緒に働く機会を与えて頂きました。その計画の内容を見た時の第一印象は、資金が不足し新会堂の実現にはかなり長い時間がかかるだろうということでした。それは、教会員も同じ思いでした。

そこで、まず資金調達のための活動を始めました。教会債を募る、外部献金を募ることなどです。そのような中、頭を悩ます問題が起きてきました。この土地には埋設文化財はないという事で購入するのに、調査すると文化財が埋設されており発掘が必要となりました。どうしても費用の負担をせざるを得ず、予定外の支出となりました。

次に外部からの資金調達に おいても、私たちのシナリオは書き換えられました。銀行からの融資は、日本基督教団が保証人となる制度を活用することが確実と思っていたのに、その融資制度が廃止され、個別に銀行と折衝しなければならなくなりました。これ迄に取引のあった銀行に融資の申込みをしたところ門前払いでした。これはショックでした。そして、三カ月以上、次の道が見えてこないのです。私たちは、「祈り

の東」と名付けて毎日朝六時と夜九時に祈っていました。この祈りの東の中で、繰り返し祈ったのは、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探さない。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」とイエスさまが語られた御言葉を頼りに、「どうか主よ、今ここであなたの力を現して下さい」ということでした。

二〇一六年十月、主は、私たちに融資先として別の銀行を紹介して下さい、一カ月後に口頭で教会に融資をしてよとの連絡を頂きました。私たちは、祈祷会で「出エジプト記」を学んでいましたが、このニュースを聞き、主が葦の海を開いたと同じ奇蹟が起きたと教会員同士喜び合いました。主は、確かに生きて働かれ、私たちに奇蹟を起こして下さいのです。その後、二〇一七年になって計画は大きく前進し、十一月三十日に新会堂が完成しました。

二〇一八年二月十八日(日)、献堂式を行いました。この教会は「主が、今、生きて働かれて」出来上がったものであり、主の伝道の御用のためにおささげしよう、との思いを教会全員が与えられています。

創立三十周年を迎えて

七里教会 小林 則義



七里教会は昨年、創立三十周年を迎えることができました。

「ヤハウエ・イルエ(主の山に備えあり)」と風間直次郎牧師とトモ子夫人が献身的に働かれ、七里教会の基礎を築かれました。以来三十年、主の導きのうちに開拓伝道の歩みがありました。実際に開拓伝道を始めました「七里福音集会」からは、実に三十八年の主の導きがあったのです。

私たちはまず「エベン・エゼル(ここまで主が導いてくださった)」と主に感謝の祈りを

ささげたいと思います。

当教会は主の導きを覚える道標として、昨年七月には創立記念礼拝を執り行いました。ラジオ牧師の小池与之祐牧師をお招きし主に感謝の礼拝をお献げいたしました。また十月には元N響奏者の宮田四郎さんをお招きし、記念ホルンコンサートを開催することができました。関係者、近隣の多数の方が集ってくださり感謝のひと時でした。クリスマスには長谷恵郁さんによるファミリコンサートを持たせていただきました。これも多くの方と祝うことができました。今その最終的な道標としての記念誌の作成に奮闘しています。

七里教会はまだ小さな群れです。しかし「主に望みをおく人の群れ」です。私たちは主の導きを求めつつ、新しい歩みを踏み出していきたいと思えます。そして「主の不思議」を見させていただき、「あなたの天幕の場所を広げよ」とのチャレンジに歩ませていただきました。と思います。

「あなたの天幕に場所を広く取り、あなたの住まいの幕を広げ、惜しまず綱を伸ばし、杭を堅く打て。」

(イザヤ書五十四章二節)



地区委員会報告

の作成について

所)が出席した。前回より多くの出席者となった。

に時間を要する見込み。閉会祈祷：大熊眞弓

編集後記

二〇一七年度第五回委員会
日時 十一月十七日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

・地区ホームページに掲載している情報を基として、十一月中に各教会・伝道所へメール、ファックスで掲載内容の調査を実施する。
三、クリスマスプレゼント(地区互助)について

・新受洗者を紹介する件については継続審議とする。
二、教区教会互助「教師謝儀互助」申請について
次の申請について承認。
・伝道資金申請
・行田教会十万円
・本庄旭教会十万円
・教会協力費申請
・桶川伝道所五万円
・伝道支援金申請
久喜復活伝道所
四万三〇三八円
・教師謝儀互助申請
加須教会、菖蒲教会

二〇一七年度第七回委員会
日時 二月十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

二〇一七年度も地区の主題「主にある交わりを深めよう」のもとに編集作業をし、今年度最終の三号をお届けできますことを感謝します。
一月八日(月)には、三区合同の新年合同礼拝を主の祝福の中に共に守れたこと、正田義也教師の就任の感謝と喜びの挨拶、昨年末から今年二月に開催された各委員会の行事の報告を記載しました。「特集」は、浦和別所教会と七里教会に寄稿いただきました。浦和別所教会は、新会堂建設にあたっての様々な様子と献堂の喜びと感謝を、そして七里教会は創立三十周年を迎えることのできた「主の不思議」という表現を通して、新たな歩みへの思いを伝えてくださいました。
厳しい冬も、三寒四温の緩やかな季節の移り変わりを自然の営みからも身近に感じられます。受難節の日々、主の十字架の苦しみを身近に感じられた贖いの恵みを身近に感じつつ、主に従う者とされたいと願います。
(茨木公子)

●地区内の教会・教師の報告
◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

●各委員会・各部報告
●主な協議事項
一、地区総会について
・推薦正議員・推薦准議員の議員登録、総会奉仕者等について承認した。
・総会議案(委員長報告・決算報告・宣教計画・予算案)を承認した。
・事務準備を三月十九日(月)午後一時より埼玉新生教会で行うことを確認した。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎会計報告
九月十九日から十一月十六日分

●各委員会・各部報告
●主な協議事項
一、地区委員会主催集会等について

●就任・辞任報告
・上尾合同教会 (辞) 秋山 徹(正)
(就代) 木村太郎(正)
・西上尾教会 (辞) 石神 稔(正)

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎会計報告
九月十九日から十一月十六日分

●各委員会・各部報告
●主な協議事項
一、地区委員会主催集会等について

●就任・辞任報告
・上尾合同教会 (辞) 秋山 徹(正)
(就代) 木村太郎(正)
・西上尾教会 (辞) 石神 稔(正)

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

◎就任式執行予定
・深谷西島 塚本 望(補)
・本庄 正田義也(正)
◎教会名称変更
・埼玉中国語礼拝伝道所
↓埼玉中国語伝道所

二〇一七年度第六回委員会
日時 一月二十六日(金)
会場 埼玉新生教会
出席 十人
主な報告

三、地区総会について
日時：三月二十一日(水・祝)
午前九時三十分～午後三時三十分
会場：埼玉新生教会
・総会奉仕者の候補者・被選挙権のない正議員・日程・議員登録・議案報告書に関する提出書類等について確認と手配をした。

二、「埼玉地区ハンドブック」発行の件
・記載事項の確認に時間を要するため、年度内の刊行が困難である。次年度継続事業とする。
閉会祈祷：小林 眞

婦人部だより

No.36

《この一年を振り返って》

上尾合同教会 吉岡 幸子

今、この一年を振り返ると、五人の委員が赤ちゃんからやつとよちよち歩きが出来るようになったところでしょうか。これまでも婦人部総会には出席していましたが、実際に委員になってみると大変細かい事務的な事柄の多さや黒衣の役割を担っていることに気づかされました。しかし他教会の方とこんなに密に交わりを持つことは、このような奉仕をしなくては味わえないことと嬉しい誤算を感じております。

良い仲間にも恵まれ、あと一年を、まずは前委員の親元を離れて、初めての四月の総会を何とか無事に終えたいと思っております。高齢化ほどの教会にも共通した課題だと思いますが、後ろ向きに捉えずに行動してみましよう。見守ってくださる方に信頼して。

(副委員長)

《地区婦人部の役割》

埼玉大通り教会 白川 典子

埼玉地区婦人部は七ブロックに分かれて地域的に近い教会が一つのブロックとして年一度ブロックごとに「もより婦人研修会」を開いてきました。

昨年四月、地区婦人部総会において、以前より出されていたこれ迄のブロック割をさらに地理的に無理のないブロック割への変更希望が出席者より出されました。数年間結論が出せないまま懸案事項となっていた案件でした。「もより婦人研修会」への参加がより可能になり、親しく互いの意見交換ができ、地域の教会同士互いに祈り合う事が深まるように、変更を考えたらよいのではないかと婦人部では判断し、今年度は「もより婦人研修会」にブロック変更願いが出されているこれまでの説明をして、出席者の意見を丁寧に聴くよう婦人部委員が各ブロックに出席

致しました。出席者の意見を直接聞きとり、地区にある教会同士が具体的に支え合い、祈り合っていくにはどうしたらよいか、地区の連帯を改めて考えさせられているところです。

地区全体が福音に生きる喜びに満たされ、活発に伝道するために、微力ですが今出来る最善を尽くそうと励まし合っている埼玉地区婦人部です。

(書記)

全体研修会報告

二〇一七年度婦人部研修会は、七月三日(月)午前十時から午後二時三十分まで大宮教会で開催いたしました。

開会礼拝は江田めぐみ牧師(越生)にご担当頂き、講演は大島力先生(青山学院大学教授・宗教主任)に午前・午後に分けて「人物で読もう出エジプト記」と題して、ご講演頂きました。午前の「モーセとその時代の女性達」、午後の「モーセとアロン」との興味深いお話でした。

今回は事前に参加者に「アンケート」をお渡しして研修の感想と来年度に希望する講師などについて記入してもらいました。

次にそのアンケートに基づき感想などを紹介致します。

感想

- ・旧約を午前、午後にかけてわかりやすく説いてくださり、よく解りました。

- ・旧約から新約へと連携して読むことの大切さを改めて知らされました。

- ・旧約聖書が身近に感じられる講演でした。

- ・旧約聖書は声を出して読む本として出ていますが今日のお話も旧約のお話でとてもよかったです。

- ・久しぶりに旧約聖書を学ぶことができ、楽しかったです。

- ・自分が「死ぬ」ことの重要性、神の栄光のためイエス様を信じているのでイエス様が信じている神なので信じます。

- ・モーセのことはよく分かっていますでしたが、きちんとモーセに関わった女性たちの事を聴いて女性としての役割の大切さを知りました。古代の女性蔑視の中で、自分というのをしっかり持っているのと思いました。今、自由の中で(一般の人)の一部は劣っている気がします。

- ・モーセの延命、本当は死ぬべき生命がこんなにして守られているのかと改めて思いました。モーセとアロン、とりなしも本人の犠牲が必要なんだと教えられました。

- ・「信徒の友」で先生の書かれた記事を読んでいたのでとても興味を持って研修会に臨みました。後部座席だったため、音響の加減で聴きとりにくかったのが少し残念でしたが、モーセ物語を女性の登場人物目線でアプローチしたお話は新鮮で面白く聴きました。

- ・午前中は受付、献金係でした。講師のお顔が聖書の話をするのが嬉しくてたまらない様子でした。無事に終わりはっと一息、すぐに来年の研修会への準備が始まったのであります。

今回の研修会は、「出エジプト記」の中に遅く生きた知恵に満ちた女性たちの姿と絶対なる神を力強く信じて生き、たモーセとアロンの姿が生き活きと語られ、旧約時代の人々の信仰に深く感動を覚えることができました。

(婦人部委員会)

もより婦人会研修会

《第一ブロック》

安行教会 阿久澤美智子

十一月十八日(土) 七教会三十一名参加。開会礼拝と講演を田中かおる牧師(安行)が担当してくださいました。

開会礼拝説教は、「ヨハネによる福音書における礼拝」。

講演は、今年宗教改革五〇〇年にマッチした「マルティン・ルターのもたらした礼拝の豊かさ」という題で、パワーポイントを用いてのルターの生い立ちや宗教改革の三大原理について学びました。

交わりの会では、婦人部役員の方からブロック変更の説明後、各教会の近況報告と歓談の時を持ちました。この日も主の導きと恵みを感じます。

《第二ブロック》

大宮教会 結城 恭子

十一月二十一日(火)、第二ブロックのもより婦人研修会が大宮教会を会場に開かれまし

た。

説教は、当教会の熊江秀一牧師。「テイベリアス湖畔で」(ヨハネ福音書二十一章)。弟子たちの再召命を通して、主イエスは迷っている私たちに何度も語りかけられることが示されました。

その後、「喜びあふれる神の家族をめざして」のテーマで、大宮教会の地域会の働きについて、地域委員の姉妹方より、家庭集会、長欠者問安(定期的に行われている介護サポート)、訪問聖餐(牧師に同行)の様子が報告されました。交わりの時も持たれ感謝のうちに終了。

六教会、五十五人参加。

《第三ブロック》

春日部教会 斎藤 元子

十月二十日(金)、秋雨の中、八教会・二伝道所から五十九名が参加し、春日部教会で開催しました。

開会礼拝では、白石多美出牧師(春日部)より「主イエスとニコデモ」と題して御言葉の解きあかしがあった。永遠の命についてあらためて感動させ

られ感謝でした。

講演は、「キリストの愛に応え福音の希望に生きる」の婦人部の主題のもとに、人は、どうしたら救われるか、人間の視点と神の視点について、恵みと励ましの御言葉を頂きました。
*自強術(じきやうじゆつ)を楽しみ、教会の紹介を行いました。

来年度担当の越谷教会が閉会祈禱をして、恵みいっぱいの中、和やかな時を感謝し閉会しました。
*健康体操のこと。

《第四ブロック》

異なる文化を超えて

上尾合同教会 勝村 英子

十月十四日(土)、上尾合同教会で開催しました。

開会礼拝説教は、秋山徹牧師(上尾合同)から「ユダヤ人もギリシヤ人もなく」と題して説教をしていただきました。講師は、林美音牧師(埼玉中国語伝道所)。講演は「異なる文化の中で如何に神の子となるか?」と題して語られました。林牧師は、お父様が台湾人、お母様が日本人。七歳まで日本で生活

し、その後は、台湾で育ったとの事。説教の通訳や二か国語による説教の難しさから文化の違いによる壁を体験しながら、周りの人々を血統ではなく、神に造られた人として見ることに大切さを語られました。

《第五ブロック》

当番教会になって

坂戸いずみ教会 山岡 理恵

十月四日(水)、気持ちの良い秋晴れの日。坂戸いずみ教会に八教会三十八名が集いました。

礼拝では、「愛と共に歩もう」との題で山岡創牧師(坂戸いずみ)より御言葉の解きあかしがあり、その後、六つのグループに分かれて、自分に与えられた御言葉の恵みを分かち合いました。

その後、軽食をいただきながら、各教会の近況報告を聞き、地区からの課題を考える時間をもち、祈りをもって解散となりました。

坂戸いずみ教会には、婦人会がありません。が、地区の祈り

の中で各教会が支え合っていることを思い、感謝して当番の任に当たらせていただきました。短い時間の中で、より有意義な聖書の学びと交わりができるようにと、知恵を出し合い準備したことは教会内の婦人たちにとっても良い機会となりました。感謝。

第六ブロックのもより婦人会は十月三十日(月)、九教会六十二名の参加で行われました。

《第六ブロック》

所沢武蔵野教会 三永貴美子

開会礼拝では、主を三度否んだペテロを再び主が用いてくださる喜びが町田神学生により語られました。

続く、三永旨従牧師(所沢武蔵野)の講演では、聖書が教える信仰について聞きました。信じるとは忠実さであり、神に自分を委ねる事である。信仰より寧ろ信託という言葉が相応しいのでは?と語られましたがどうでしょう。

その後、五グループに分かれ昼食をとりながら、各教会の近況や今日の御言葉について語り合いました。

《第七ブロック》

熊谷教会 村上 紀子

十月七日(土)、雨も開会時には止み、五教会・二十八名の参加の方々の足も守られました。

大坪園子副牧師(熊谷)による礼拝説教「命を得るために」。続く講演は、「主を喜び祝うことは、私たちの力」と題し「自らに頼らず主に信頼しきって、神を賛美し、絶えず祈りながら歩む時、どこにいても神のお力という安全な場所にいることができる」と学びました。

七曲のワーシップソング(神に跪く歌)が、園子牧師の力強い歌声で会堂に広がり、参加者の心に神を賛美する思いが新たにされました。

もより婦人会の区割り等、今後の在り方については、各教会への宿題となりました。

アジア学院学生
ホームステイプログラム

アジア学院では、二〇一七年度もアジア、アフリカの国々から指導者的立場にある二十四名の方々を迎え、四月から十二

月までの九カ月間、学院の motto とする「共に生きること」の実践的カリキュラムの中で国籍、宗教、民族、習慣、価値観等の違いを互いに認め合いながら「仕える指導者」となるための研修に励まれました。

また、学生は、自国の地域社会の「共同体形成」のための生活様式を見出すことに励み、創造主から与えられた自然と土地を大切に、「フードライフ」を日常的な経験の中で養うという、指導者養成の研修を重ねました。

その様なアジア学院の年間研修計画の中の貴重なプログラムとして、このホームステイ・プログラムが位置付けられています。今年度は、六月三日(土)〜五日(月)実施し、土曜日の午後は、西早稲田のキリスト教会館で婦人会連合の世界教会運動委員会主催の歓迎会をホストファミリーとともにいたしました。

埼玉地区では、二家庭(高崎和子さん、高橋悦子先生)がホストファミリーを受けてくださり、三人(バングラデシユ、カメルーン、フィリピン)の学生を迎えてくださいました。

アジア学院学生
ホームステイ報告

《今年も又…》

所沢みくに教会 高崎 和子

今年もホームステイの研修生二人(バングラデシユ、カメルーン)を我が家に迎えました。



私は、いつもありのままの生活で彼らを迎えています。特別ごちそうを作るわけでもなく普段の我が家の献立です。テーブルを囲み、ベンガル語、フランス語、英語、そして日本語で互いに語り合うことの楽しい事! 食事にも勝るひと時です。

日曜日は、丁度ペンテコステ礼拝に出席し、夕方は、教会員と共にバーベキューをして楽しい交わりの時を持ちました。彼らの十二月までの学びの期間、ほっとする楽しかった二泊

三日を思い出して、励みになってくれることを思い、祈っています。

《祈りつつ》

桶川伝道所 高橋 悦子

私たちの伝道所で迎えたのは、フィリピンから来られた看護師の資格を持つ三十歳のサイキ・マリイ・ポラスさん。

迎える伝道所の通訳スタッフで日英語の礼拝の通訳をした。カトリック教会ボランティア職員のサイキ姉のメッセージは、刺激的だった。



帰国して農業のリーダーとして貢献したい彼女は、アジア学院で鶏や豚の飼育を学ぶ。フィリピンの社会における様々な問題に際して、「コミュ

《二〇一八年度予告》

▼地区婦人部総会

* 四月十六日(月)
午前十時〜十二時

▼地区婦人部全体研修会

* 七月九日(月)
午前十時〜午後二時半
* 講師 藤盛勇紀牧師
(富士見町教会)

◎会場は、いずれも大宮教会です。

◎七月の研修会は、各自昼食をご持参ください。

多くのご参加を期待しています。